

君がなさげに深草の
文運開始聲高く

軒の雫に身をきよめ
歌ひをさん今得こそ。

月前の菊

加藤 ひな

虫の音さえて風さむく
霜にたはまぬ白さくに
秋をわはれどたかいひと
にはひもまさる菊の花

なかめ淋しき夕まくれ
光そへたるつきのかけ
ひかりさやけき月影に
げに風情ある夕まくれ

同

小島 たつ子

千草の花もうつろひて
ひとりにはふか菊の花

あたり淋しきませの中
すむ月かけを友として

同

鶴田 八重

月影白く夜はふけて
まかきにさける白菊の

霜のひかりも置そひぬ
かをりは空に匂ふなり

同

田島 ます子

千草の花もかれし野に
霜にあへすもうつろ

月影落ちて風さむし
秋の村菊あなわはれ

八雲艦

鈴木 ゆき子

千早ふる神のいふさに
どいろきて黒雲おこし
日の本の國のいしずゑ
八雲艦あなたのもしの

八雲艦いかづちのごと
わたの原走るを見れば
いや高しあな勇まし
八雲かん

暮 秋

東 くめ子

心なしてふ草木さへ
風も吹かぬにはらくと

秋の限を惜むらん
葉末の露のこぼるゝよ

森 かげ

小林 恒子

夕の星にあこかれて
誰を松風か聞きなれし

何時か來にけり森蔭に
ピアノの音のなつかし